

先輩からのメッセージ

就職活動中の皆様へ

就職活動をしていた頃、私は将来について真剣に悩んで……いたわけでもなく、説明会で話をした人が丁寧だったから、程度の理由で厚生労働省の面接を受けに行ったような気がします。そうした私が以下これまでの業務を通じて得られた所感を記載しますので、数ある例の一つとしてご参考になれば幸いです。

入省して最初は保険局調査課に配属されました。保険局調査課は主に日本における公的医療保険の金額のとりまとめや将来推計などを行う部署です。ここでの私の業務は、主に被用者（企業に雇われている人）が加入する健康保険における医療費等のとりまとめやその分析、局内の他課室との調整などでした。

ここでは基本的な業務の進め方など、以後の業務を通じて必要となる基礎を学ぶことができました。また、隣の係の方が産休に入られるとのことで、応援として国民健康保険（自営業の方等が加入するもの）についても触れる機会があり、同じ公的医療保険でも制度によって色々と異なることを知りました。

次に、政策統括官付参事官（雇用・賃金福祉統計担当）付雇用・賃金福祉統計室（長い！）に配属されました。ここは、主に労働系の統計を作成している部署ですが、幸運なことに私は数理職員があまり担当することのない実査から公表まで、一通りの業務を担当することができました。

その後異動し、現在は同じ局内の審査解析室に所属しています。ここでは主に統計調査の標本設計や誤差計算、調査企画に当たっての相談及び助言などを行っています。これらの業務は前室でも室内の統計について行っていたましたが、審査室では局内に限らず省内の統計についてこれらの業務を行います。

統計部署にいて感じることは（これは統計部署に限らないことかと思いますが）一つの事業を行うだけでも多くの方の協力があって成り立つということです。統計であれば本省の担当者だけではなく、実際に業務を行っていただく調査員や都道府県職員、そしてご回答いただく個人・法人の協力が不可欠です。

そして関わる人が多くなるほど、運営が難しくなります。具体的には実際に取れる手段が限られるなどです。この作業は簡単ではありませんが、この理想を現実に落とし込む或いは逆に現実を適切にモデル化するというのは、理工系の人

には馴染み深いものであり、興味を持たれる方もいるかと思っています。

ここまで述べてきた私の業務経験を通じて、有用と感ずることを二つご紹介します。一つ目は、人に聞くことを厭わないことです。大抵のことは聞けば解決します。厚生労働省には優秀で聞けば親切に教えてくれる人が沢山います。仮に答えが得られない場合でも考えるための助言を貰えます。

これは同時に、作業の誤りを減らすことに繋がります。自他問わず大抵の作業に誤りはつきものです。他の人に相談することによりこうした誤りを減らせますし、更に自分だけでは得られない発見に繋がります。なので、上司でも先輩でも部下でも困ったときは何でも相談することが大切です。

二つ目は、物事は気の持ちようで見方は変えられるということです。1,500字程度で業務紹介を書いてと言われると「うえ……」となりますが、140字の投稿11回分と考えるとなんとなくできそうな気がしてきませんか。これは極端な例ですが、自分なりの視点を持つと面倒な作業も面白くできるかもしれません。

この仕事は批判を受けることや長時間の残業を余儀なくされることもあり、簡単な仕事とは言えないかもしれません。しかし、全ての仕事がそうであるように、業務が社会の役に立つことは少なくとも悪いことではないと思います。最後になりましたが皆様と仕事ができる日が来ることを楽しみにしております。

（この文章は140字以内の段落×11個でお送りしました。）

政策統括官付参事官付
審査解析室 総合解析係長

寺坂 泰亮



＜経歴＞

保険局調査課
政策統括官付参事官付
雇用・賃金福祉統計室
を経て現職